

東和工業

メーカーは3月契約以降、売り値を据え置いているが、来月には値上げに動く可

高水準の出庫量となつたH形鋼

たい」としている。

は減少した。H形鋼は、仕入れが

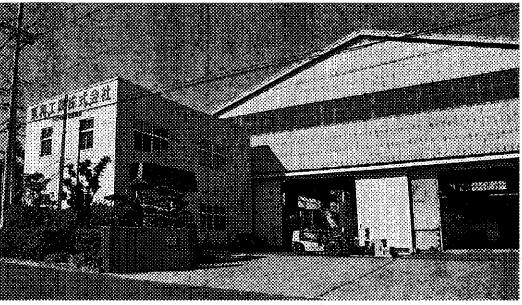
・8%増加した。

中山形は、販売が同

・03カ月とほぼ前月並み。

た。月末の在庫率は2

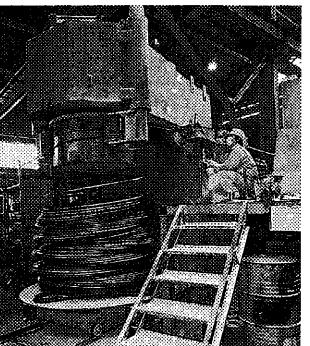
建築用ファスナーメーカーの東和工業（本社・大阪府堺市、社長・中谷成智氏）は、本社工場と第2工場の二拠点体制で、鉄鋼製ナットに特化したものづくりを行っている。1944年に大坂市港区で設立した同社は、78年に本社・工場を現在地に移転、85年に第2工場を得た。その後も2011年に高石市に物流倉庫を、今年3月には本社工場の南隣に別館を取得するなど業務拡大を続けている。冷間ホーマーナットを中心に製造・販売する、国産ナットのシェアでは国内トップクラスの同社工場を訪れた。（綾部 翔悟）



事務所・工場外観

また、2台の伸線機を駆使して、丸だけでなく六角や四角などの伸線を行っている。更に、4軸式ねじ切り機を約30台、4段、5段、6段のフォーマーを計13台配備し、多様なサイズにも対応している。そして、めねじを加工するタップのメンテナンス技術を有する。社内研磨によつてコスドウンを図つている。そのほか、2階の食堂には休憩可能な場所の小上がりを設け、社員教育用ビデオを置くなど福利厚生や教育訓練関連の充実

トドゥンを図つている。そちら、社員も会社も一体となつて成長していく」（同）と熱い語る。約200社あるユースがあり、2階には画像選別機が置かれている。



工場には伸線機を配備

阪府高石市）や本社工場近くに新たな物件を取得するなど、業容拡大に向けた取り組みを実施している。同倉庫は、約900トンの在庫スペースがあり、2階には画像選別機が置かれている。

今年3月に取得した本社南隣にある物件の敷地面積は約1100平方㍍。事務所棟と工場建屋とがあり、いずれも2階建。建屋1階は現在、在庫置き場として活用している。「今後、社員満足度

工場ルポ

高品質の国内ナット生産が強味

多種多様製品を効率生産

国内材で品質追求

東和工業の本社工場では、調達した線材の酸洗・伸線からは約7割が輸入品となってい類。主に、建築物の締結用部材となる線材は中山製鋼所やJFEスチールなど、国内メーカーと話す。

東和工業の本社工場では、調達した線材の酸洗・伸線からは約7割が輸入品となってい類。主に、建築物の締結用部材となる線材は中山製鋼所やJFEスチールなど、国内メーカーと話す。

が向上するような場所として活用していきたい」（同）といふ。呼称は別館としており、本社・工場とは母家と離れるような関係になる。将来は別館を企業内保育スペースなどとして活用することで、子育て中の女性でも働きやすい環境にする考え方。

この要求に迅速に対応するため、一貫体制の下、メイドインジャパンの高品質製品を製造している。ドインジャパンの高品質製品品に対抗し、需要開拓や人材育成といった業容拡大につながる取り組みを積極的に行う方針だ。

業容拡大への取り組み

東和工業は、物流倉庫（大

・・・